

2025 年第 4 週の報告です。

インフルエンザの報告数は減少傾向ですが、全国・京都府の流行発生警報は今週も続いています。その他の定点報告対象疾患は京都市右京区で **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が、京都市南区・右京区・西京区・乙訓で**伝染性紅斑**の警報レベルが継続しています。山城北で**咽頭結膜熱**、京都市左京区で**水痘**、中丹西では**急性出血性結膜炎**が新たに警報レベルになりました。眼科定点は**急性出血性結膜炎**が 1 件・**流行性角結膜炎**が 6 件、基幹定点は**マイコプラズマ肺炎**が 2 件報告されました。

全数報告対象の疾患は、2 類の**結核**が 4 件、4 類の**レジオネラ症**が 2 件、5 類の**クロイツフェルト・ヤコブ病**と**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**がそれぞれ 1 件、**侵襲性肺炎球菌感染症**が 2 件、**梅毒**が 5 件、**百日咳**が 3 件報告されました。

急性出血性結膜炎は突然の強い目の痛み、異物感などで始まり、結膜の充血、特に結膜下出血を伴うことが多い急性結膜炎です。主としてエンテロウイルス 70（EV70）とコクサッキーウイルス A24 変異株（CA24v）の二つのウイルスによって引き起こされ、接触感染により伝播します。潜伏期間は EV70 が平均 24 時間であるのに対し、CA24v では 2～3 日とやや長い傾向にあります。発症年齢は小児から成人まで広範囲にわたります。これらのウイルスに対する特別な治療法はなく、症状に応じて対症療法がおこなわれますが、細菌の二次感染を防ぐ目的で、抗菌薬などの点眼が用いられることがあります。通常、約 1 週間で治癒しますが、EV70 では稀に発症から 6～12 カ月後に四肢に運動麻痺を来すことがあるので、注意が必要です。とても感染力が強いウイルスなので、眼を触らないようにし、手洗いを十分に行い、タオルなどの共有は避けましょう。